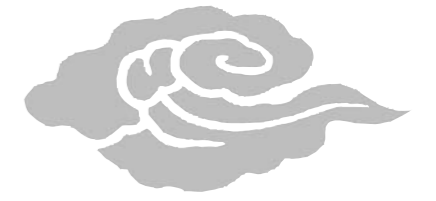


建設会報 いずも



No.125 2012年 新春号



一般社団法人
編集・発行人 島根県出雲地区建設業協会
経営改善研究委員会

表紙の言葉



神話博しまね

えと文 / 渡部良治

日本最古の歴史書「古事記」が編さんされ、今年で1300年を迎えることから、昨年は出雲部で出雲神話をテーマにした講演会や、シンポジウムが盛んに開かれました。

そして今年も、7月21日から11月11日の114日間、県立古代出雲歴史博物館を主会場に「神話博しまね」が開催されます。古代文化を知る展示やワークショップ、神話世界を体験する映像シアターや、神楽など伝統芸能の上演、グルメやお土産など、神話の世界観を誰もが体験できる様々なアトラクションが展開されます。

イベントを通じて、こども連れのファミリー層から伝統文化に興味あるシニア層に至るまで、多くの人々が神々が織りなす日本のはじまりの物語や、地域の魅力を体感することができそうです。



CONTENTS

- ▶ 巻頭言／中筋 豊通〔一般社団法人島根県出雲地区建設業協会長〕……1
- ▶ 新年のご挨拶
／城市 正喜〔出雲労働基準監督署長〕……………3
／石倉 繁樹〔出雲警察署長〕……………4
- ▶ 島根県各種功労者表彰を受賞して
／長岡 秀治〔株フクダ〕……………5
- ▶ 安全委員会視察報告／三代 修治〔有斐川建設〕……………6
- ▶ 平成22年度施工優良工事表彰／表彰一覧……………7
- ▶ 優良工事表彰を受賞して／金坂 篤〔株倉橋工務店〕……………9
- ▶ 優良工事表彰を受賞して／渡部 義孝〔株ダイニ〕……………10
- ▶ 年男の抱負／内藤 祐馬〔内藤建設工業株〕……………11
- ▶ 私はSHIAWASE／小畑 萬枝〔株小畑建設〕……………12
- ▶ 重金属の吸着材開発について／小村 一行〔大福工業株〕…13
- ▶ 心が和む“笑刻”の世界への誘い
／一般社団法人島根県出雲地区建設業協会 事務局……………15
- ▶ 編集後記／福田 美樹〔経営改善研究委員長〕……………17



誇りを持って、力強く 大きく「飛 龍」

一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会
会 長 中筋豊通

平成二十四年 壬（みずのえ）辰年 新年おめでとうございます。

昨年は、大変厳しい年でした。東日本大震災、原発事故、歴史的円高、タイの大洪水による生産拠点被害など、災難続きでした。果たして今年はどうなるのでしょうか。

世界を見ると、やはりユーロ危機、ユーロ圏の債務不安がどうなるのでしょうか。米国経済も心配です。中国の経済成長にも黄信号が点滅し始めました。インドも貿易赤字の拡大で失速気味です。

日本はどうでしょうか、大震災の復旧・復興、そして原発ショックから立ち直れるのでしょうか。日本人なら出来る、強さと優しさ、そして「絆」を持って、今年を日本復活の年にしたいものです。

「コンクリートから人へ」この民主党のスローガンと言うべき言葉が消えようとしています。民主党の「新たな戦略的国土政策を推進する議員連盟」(伴野豊会長)が、昨年末、12年度予算編成に向けた提言を発表、国民の安全・安心の確保や成長基盤の構築を進める観点から、社会資本整備の戦略的な推進が必要と強調。これ以上の公共事業費の削減は、日本経済や地域経済と共に建設業の疲弊も招き、地域の安全・安心の確保にも深刻な悪影響を及ぼすとの見解を示しました。

3.11、東日本大震災、原発事故、あまりにも大きな犠牲を払いました。しかし、あの日から、人々の考え方が変わってきました。治水、治山、そして「命の道」道路整備など、減災・防災対策を始め、国作りの根幹は社会資本整備にある、そんな声が出てきたのです。

地震で自ら被災したのにもかかわらず、先頭に立って復旧のために働いた地元の建設業者を始め、多くの被災地の人が前を向いて必死に頑張っています。この人々の笑顔が返ってくる日が必ず来る、必ず……。

今年壬辰年、辰=竜 想像上の動物で、体は大蛇に似て、背に81枚のうろこ、4足に各5本の指、頭には2本の角があり、顔は長く耳があり、口辺に長いひげを持つ。水中または地中にすみ、時に空中を飛行し、雲や雨を起こし、稲妻を放つという。中国では、古来、鱗虫の長とされ、鱗、鳳、亀、と合わせて四瑞の一つとし、仏教では八大竜王に分け、航海や雨乞いの守護神とする。とあります。(小学館・国語大辞典より引用)

東北の復旧・復興に合わせ、私たちが故郷の安全・安心のための県土基盤の整備と、経済面での競争力を支えるための社会資本整備を進めて行かねばなりません。辰年の今年、建設業界にとって厳しい航海に変わりはありませんが、建設業は素晴らしい産業です、人々のために働けることに感謝し、誇りを持ち自信を持ち、辰に、竜にあやかって、弱音を吐かず頑張っていこうではありませんか。元気に力強く大きく飛び立ちたいものです。

「飛龍」今年もよろしくお祈りします。

ありがとうございました。





新年のご挨拶

出雲労働基準監督署
署長 城市正喜

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、すがすがしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃から労働基準行政とりわけ労働災害防止対策の推進に当たり、格別のご理解・ご協力を賜っておりますことを改めて厚くお礼申し上げます。

さて、平成23年11月末現在における当署管内の建設業の労働災害発生状況（休業4日以上
の死傷災害）は、29人の発生で前年同期に比べ6人の減少となっておりますが、死亡災害に
つきましては2人の方が被災されるという事故（国道上で自動車にはねられたもの、ドラグ
ショベルの後進時に轢かれたもの）が残念ながら発生したところです。

新しい年を迎えるに当たり、当署におきましても、建設業はもとより全産業において死亡
災害は1人も発生させないとの強い信念の基に、監督指導・個別指導を実施することとして
おりますが、建設業における労働災害の防止を図るためには、各事業者の皆様方がリスク
アセスメントを導入しこれを実施するなど自主的安全衛生活動を積極的に行っていただく
ことが必要不可欠であると考えております。

昨年と同様に引き続き皆様方の一層のご尽力・ご努力を期待しておりますのでよろしく
お願い申し上げます。

最後になりましたが、一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の益々のご発展と会員事業
場の益々の飛躍をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

出雲警察署
署長 石倉繁樹

新年あけましておめでとうございます。一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方
におかれましては輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また昨年中は、お忙しい業務の中、暴力団排除活動や交通安全活動等の警察業務の各般に
わたり、格別のご理解とご協力を賜りましたことに対し厚く御礼申し上げます。

昨年3月11日に発生した東日本大震災は、地震、大津波に加え原子力災害が複合的に発生
するという我が国が経験したことのない緊急事態であり、東北地方を中心に甚大な被害を
もたらしました。県内においては、島根県立大学生死体遺棄事件について未だ犯人の検挙に
至っておらず、また、松江市内における強盗殺人事件、益田市における金融機関対象の強盗
事件など重要凶悪事件も発生し、加えて交通死亡事故件数も増加しています。この様な社会
情勢の中、危機管理機能の中核を担う警察としては、本年も安全安心な社会を実現すべく、
更なる諸対策を推進していく所存であります。

さて、暴力団情勢に目を向けて見ますと、昨年、六代目山口組組長が刑務所を出所し、
これに伴って県内における山口組傘下の団体も勢力拡大を図ると共に潜在性を高め、その上
で建設工事等へ参入するなど、あらゆる資金獲得活動を行っています。

こうした中、昨年4月に「暴力団事務所の進出阻止対策・暴力団の資金獲得活動の規制・
祭礼等からの暴力団排除」を柱とする「島根県暴力団排除条例」が施行されました。また出雲
市においても、平成24年4月に「出雲市暴力団排除条例」が施行されることとなっています。

出雲警察署管内では、皆様のご協力により長年にわたり暴力団の進出を許しておりませ
んが、今後も暴力団などいない、明るく住みよい社会を維持していくため、皆様には引き続き、

- 暴力団を利用しない
- 暴力団を恐れない
- 暴力団に金を出さない

の「**暴力団追放三ない運動**」の実践をお願いします。

出雲警察署といたしましては、今後も協会の皆様と緊密な連携を図りつつ、犯罪のない安全
で安心なまちづくりの実現に署員一同誠心誠意取り組んで参りますので、変わらぬご理解と
ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年における一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方の安全
と益々のご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



島根県各種功労者表彰を受賞して

株式会社 フクダ
長岡 秀治

新年あけましておめでとうございます、本年も宜しくお願いいたします。

先ずもって私事ではございますが

昨年は5月に全建表彰、また11月には島根県各種功労者表彰の土木部門にて表彰拝受の栄に浴しました。建設業協会や土木施工管理技士会で皆様のご協力のお陰と思い、感謝に耐えません。

今後この栄誉に恥じないよう、微力ではございますが、建設業界の発展のため尽力させていただきますので宜しくお願い致します。

さて、昨年は正月の島根県東部の大雪から始まり、東日本大震災、福島原発の事故、大型台風の到来、また世界においてもハリケーンや震災など自然界が一変するような災害が相次ぎ発生した一年でした。

我々建設業界においても景気回復の見込みも少なく、その上に震災などの影響を受け公共事業の激減を受け以前にもまして厳しい年でした。

ひとつ我が島根にとって明るい兆しが見えたのは山陰道の3箇所の着工命令でした。青木幹雄先生を始めとする島根の自民党国会議員先生の働きがあったからこそと感謝する次第です。いち早く山陰道や松江尾道線が完工し高速ネットワークが結ばれることを期待するところです。

我が出雲市も10月1日には斐川と合併し、中国地方随一の平野を持つ都市として、新たな展開が期待できます。出雲大社・縁むすび空港などの観光、斐川の先端誘致企業をはじめ農・工・商がベストミックスした新生出雲市が「出雲」ブランドを持って牽引役となりこの地域が更に発展するよう願うばかりです。そのため我々建設業界の果す役割は大きなものがあると思います。

県内の公共事業を見渡しますと、国では志津見・尾原ダムや斐伊川・神戸川放水路そして松江・尾道線がまもなく完工することとなり、山陰道が徐々に繋がり、大橋川改修がやっとスタートしたところです。また県は少ない予算の中でも何とか道路・橋梁を始め長寿命化に取り組んでいます。

今後地域の建設業者としてお願いしたいことは、やはり島根は観光に向けたアクセスの充実を図る事、そして出雲平野の震災に強い街づくり、特に斐伊川や宍道湖の流動化対策等今後の事業展開を望むものです。

昨年は「卯」年ウサギは跳ねるとありましたが、まさに地球が跳ねた年でした。そして今年「辰」年です。昔から「辰・巳」天井と言われ、良い年になると言われます。

我慢の時代が続きましたが、出雲も少しずつ脚光を浴びているなか、我々の力でこの地が発展しますよう期待して挨拶と致します。



安全委員会視察報告

有限会社 斐川建設
三代 修治

私たち安全委員会は、昨年10月6・7日の両日広島県で行われた第48回全国建設業労働災害防止大会に参加しました。

また、皆様のおかげでこの大会で私が功績賞をいただけることとなり、感謝をいたします。ありがとうございました。

当日は、天気も良く快晴に恵まれ高速バスで8時半ごろ出発し一路広島へ、午前11時40分頃に到着。バスセンターの上のレストランで、昼食に広島名物の広島風お好み焼きを美味しくいただきました。

午後からは、バスセンター隣の広島県立総合体育館で開会式があり、参加しました。

開会式では、東日本大震災と労働災害で亡くなられた方への黙祷から始まり、建災防会長の挨拶があり、つづいて来賓挨拶、歓迎の言葉等がありました。

その後、安全衛生表彰、顕彰があり、私もりっぱな盾をいただき大変有り難く、うれしく思いました。

その夜は、安全委員の皆さんと大変美味しいお酒をいただきました。それと、広島夜景も堪能でき、感動した一日でした。

一夜明けて二日目は、各専門部会（リスクアセスメント、土木建築、安全衛生、住宅）の中から、安全衛生教育部会に行きました。最初は、労働基準局の建設安全対策室長の中屋敷氏による講演がありました。

ここでは、東日本大震災の復旧工事における労働災害防止対策について、低層住宅における足場の設置での安全な措置ということで講演がありました。転落、墜落災害の防止について足場組み立ての変更点、点検項目など、再認識しました。

次に、(株)竹中工務店の本店 安全環境部平井氏が店社と一体となった安全衛生協力会の安全衛生教育の推進についてと題して自社での安全衛生協力会の組織図や安全衛生教育、送り出し教育等の実践によるお話や、年間を通した安全教育の年表も提示して協力会と連携を取りながら、安全衛生教育に今後も取り組んで行くというお話でした。さすがに大手ゼネコンというだけあって、研修会数、資料等もたくさんあって、内容も充実していました。どの講演でも、パワーポイントを使ってのお話で、目で見て解りやすい説明で、参考になりました。私たち安全委員も日々努力をし、勉強をしないとイケないとあらためて思いました。

この全国大会での研修は、普段聞くことの出来ない発表や講演を聞き、私たち安全委員にとってレベルアップできるものではないかと思いました。

午後からは、帰路のため会場をあとにし、徒歩で昼食会場に移動しました。

最後に、無事故無災害のためには、やはり周りとの連携をとり、ひとつ前の行動（作業）の不安全な部分を取り除く（対処）をしていくことが大切だと感じました。

「安全は出雲から」といつも分会長が言われていますように、出雲地区が県内のリーダーになるように皆様の事業所を含め、みんなで一緒に頑張りましょう。ご安全に！



平成 22 年度施工
島根県優良工事知事表彰

部 門	工 事 名	施工業者／代表者名	主任技術者 又は監理技術者
農業土木	平成 22 年度 地すべり対策事業 平田第三期地区斜面改良(杉畑 7 側線)工事	岩成建設有限会社	岩成 みち男
		代表取締役 岩成 みち男	
森林土木	平成 21 年度 山地災害総合減災対策 治山事業(木村)治山ダム・山腹工事	吉田建設工業株式会社	高見 亮
		代表取締役 原 嘉昭	

平成 22 年度施工 優良工事表彰 ◇所長表彰◇

部 門	工 事 名	施工業者／代表者名	主任技術者 又は監理技術者
道 路	(一)三刀屋佐田線 朝原 2 工区 県単道路 (交通安全 1 種)工事	株式会社 今岡興産 代表取締役 今岡 裕統	河井 稔之
	(一)佐田小田(停)線 小田工区 地域活力 基盤創造交付金(改良)工事 第 2 期	株式会社 安井組 代表取締役 安井 和広	富士原 令和
	(一)鱒淵寺線 国富工区 地域活力基盤 創造交付金(交通安全)工事	有限会社 米江組 代表取締役 米江 猛	宇野 斉
	国道 431 号 美野工区 地域活力基盤 創造交付金(交通安全)工事	株式会社 倉橋工務店 代表取締役 倉橋 一三	金坂 篤
	(主)出雲三刀屋線 船津工区 舗装整備工事	株式会社 ダイ二 代表取締役 安達 稔	渡部 義孝
	(一)大社立久恵線 乙立工区 県単緊急道路災害防除工事	今岡工業株式会社 代表取締役 今岡 余一良	吉田 真

部 門	工 事 名	施工業者／代表者名	主任技術者 又は監理技術者
河 川	十間川 広域河川改修工事 第 3 期	山陰建設工業株式会社 代表取締役 磯田 真左一	舟木 仁志
		岩崎建設有限会社 代表取締役 岩崎 和良	
建 築	出雲空港 歩道ルーフ設置(建築)工事 平田高等学校 第二屋内運動場 リフレッシュ工事	昭和開発工業株式会社 代表取締役 荒木 國夫	角 祐樹
		株式会社 今岡興産 代表取締役 今岡 裕統	
農 業 土 木	平成 22 年度 中山間地域総合整備事業 (一般型)出雲南地区 山寄石畑集落道道路(その 3)工事	株式会社 もりやま 代表取締役 森山 勝	加戸 伸一
森 林 土 木	平成 21 年度 林地荒廃防止事業 (西の谷)治山ダム工事	島建コンサルタント株式会社 代表取締役 小田 基明	和田守 直行
農 林 地 質 調 査 測 量 業 務 調 査 業 務	平成 22 年度 地すべり対策事業 平田第三期地区 地質調査及び 機構解析業務(三之谷・杉畑)		





優良工事表彰を受賞して

株式会社 倉橋工務店
金坂 篤

この度、平成22年度国道431号美野工区地域活力基盤創造交付金（交通安全）工事に於いて、優良工事表彰を頂き、大変光栄に思っております。

この工事は国道431号の自転車道設置に伴う道路拡幅工事でした。

本工事は特殊な発泡スチロールブロックをちどり状に積み上げ路床・路体盛土を行うEPS工法（軽量盛土）でした。

施工にあたり、竹林の伐採を行いながら竹が多いこの現場は地下水・湧水が多い事が予想され、地すべり地帯でもあるのを考慮し、工事を進める上で特に湧水に注意しようと思いました。

本工事に入ると先ず不慣れな片側交互通行の規制帯の中での作業でしたので、作業員の飛び出しや重機の急旋回等は重大事故につながるので、急な行動を禁止し、毎朝の危険予知活動時に徹底しました。結果、皆様の協力もあり無事故で工事を終えることが出来ました。

施工中に、軽量盛土工もあと1スパンで完了という時、床掘作業時にそれは起こりました。私はたまたまその場に居合わせなかったのですが、協力会社の主任技術者から「水道を切ったかもしれん、それも結構大きいのを」と電話があり、あんな場所に水道なんて無いのにと思いながら急いで現場に向かいました。もちろん事前に水道局とも協議済みで支障物件の移動は済ませていました。現場に着くと確かに水が噴き出しているのを見ました。「やってしまった」と落胆しましたが、それでもまだ、切断した水道管を見るまでは確信がもてなかったため、早急に管を探しましたが管が見当たらず、見つかったのはかなり古いΦ300の暗渠管でした。それは現道の高さから深さ3mの位置にあり、先端が完全に土砂で埋まっており、相当量の溜まり水が、ジョイント部分から漏水を起こしていました。その後調査を続けていると、降雨時は一畑電鉄側の山からの水が流れ込む事が分かり、監督員とも協議し新設管を接続し適切に処置する事にしました。この既設管に気付かず施工を進めていたらと思うと恐ろしくなりました。

このように、この現場は制限も多く今までにない難度で、頭を悩ませましたが、発注者・協力会社・地域の皆様のご理解とご協力、支えがあり無事に完成する事が出来感謝しています。

また、土木技術者としての名誉も頂き、とても思い出の有る現場となりました。皆様、本当にありがとうございました。

今後も、現場の条件に即した対応力と、技術力を身につけ、頑張っていきたいと思っております。

現在、建設業界には非常に厳しい逆風が吹き荒れており明日のことさえ分からない状況ですが、これから少しでもこの業界の必要性が再認識されて、再び陽があたることを願いたいと思っております。



国道431号美野工区
地域活力基盤創造交付金(交通安全)工事



優良工事表彰を受賞して

株式会社 ダイニ
渡部 義孝

このたび、(主)出雲三刀屋線船津工区 舗装整備工事に於いて、優良工事表彰を頂いたこと、大変光栄に思っております。

この工事は、大津町から上島町の間をわたり、4工区（約1,700m）の舗装修繕（機能回復）を目的とした工事でした。

この路線は出雲市と雲南市を結ぶ重要なアクセス道路であり交通量も多く、また斐伊川の左岸堤防を利用した堤天道路ということもあって、舗装の疲労破壊によるクラックが多数発生しており、これまでも様々な工法で修繕が行われてきましたが、今回はオーバーレイ工法での施工でした。

しかし、当初の工法のまま舗装を行った場合、既設舗装に発生しているクラックが早期のうちに新設舗装へ影響を及ぼすことが懸念されたため、クラック抑制対策が重要な課題となりました。

工法を決定するにあたり、過去の実績による工法の拾い出し、書籍やインターネットによる情報収集、協力会社への工法の問い合わせなどによって情報を集め、三つの案から工法の決定を行う事にしました。

それぞれの工法について「施工方法」、「舗装構造（TA）」、「環境面」、「交通対策（第三者への影響）」、「施工単価」などの特徴を比較検討し評価を行った結果、アスファルト混合物に、「碎石マスチックアスファルト」を使用しクラック抑制対策とする、「碎石マスチック舗装」が最適であると判断し、発注者と協議を行い最終決定しました。

しかし、会社としてこのアスファルト混合物での施工はわずか一度だけで、個人的にも担当技術者としては初めての使用となるために、製品の特性や施工上の留意点と言った知識、経験とも不足しており、まずは施工スタッフ全員がアスファルト混合物製造工場の試験室担当者として、施工方法や施工管理について数回にわたり講習や打ち合わせを行い、十分な理解や知識を得た後、施工を行いました。

その結果、実際の作業時にも戸惑うことなくスムーズに作業を行うことができ、また満足のできる成果が得られ、そして私自身にとってもまた一つ新たな知識と経験が増えることとなりました。

今後、公共工事は新規工事よりも維持修繕工事が増えていき、それと同時に、様々な現場状況による施工方法の制約なども増えることになると考えられます。それら様々な現場状況や制約に対応していくためにも、過去の経験だけに頼るのではなく、新工法や新技術、新材料についての情報収集を行い、講習会などへ積極的に参加することにより知識を増やし、これからの仕事へ活用していきたいと思っております。



(主)出雲三刀屋線船津工区 舗装整備工事



年男の抱負

内藤建設工業 株式会社
内藤 祐馬



新年明けましておめでとうございます。

本年で36歳となり、何事においても少しずつ衰えを感じている今日この頃ではありますが、それとは反して、出会いという無限のものに対して歳を増すごとにその機会が増えていく喜びを感じております。

さて、私は、高校を卒業後、東京都にある工学院大学専門学校に入りました。そこでは、建築の基本的なことから実践的なことまでを学び、卒業後にすぐ出雲へ帰って来ました。いずれ内藤建設工業株式会社へ帰ることを念頭に置きながら、出雲市内にある設計事務所へ修行と称して、お世話になりました。駅舎、住宅、医院、マンションと様々な用途の建物を設計し、出雲科学館、グラントワのコンペにも少しですが携わり、沢山の貴重な経験をさせていただきました。5年間の修行を経て自社に帰る決心をし、平成15年11月に内藤建設工業株式会社へ入社いたしました。現在、入社から9年目を迎え島根県出雲地区建設業協会青年部会を始めとする様々な団体への入会や、皆様方との出会いから今までにない貴重な経験をさせていただくことが出来ました。そして、普通では決して得ることのできない多くの知識を得られた日々であったと思います。まだまだ、私の力は微力で未熟者ではありますが、今後も様々な方々との出会いで、沢山の刺激を受け自己を磨くことで、会社、地域社会の発展に少しでもお力になればと考えています。そのためには、この変動する経済環境の中、揺るがない自社の経済基盤をどう作っていくかが大切であると思います。それは、新しい技術、新しい材料といった物質的な物ではないところにあると感じています。我々の先代達の時代には国が発展途上の一途をたどり、国民のニーズと供給ががっちしていたと言えます。ですが、現在は様々な理由でニーズと供給のバランスは崩れつつあり、それが公共工事、民間工事の減少等に繋がり、建設業界全体が衰退してきた原因であると思います。私達は、こういう時代だからこそ、お客様のニーズを大切にすべきであり、これまでのお客様との関係性を見直すことが最重要であると思います。今、我々が直面している経済不況とはこれまでの時代の流れから見て当たり前のことであり、どうにかしていくのが我々の使命であります。その中で重視すべきは、お客様との信頼関係を強めることです。これまでのお客様の期待を裏切らないよう、きっちりとした仕事をし、お客様に対して感謝の念を忘れないこの当たり前のようなことこそが、この時代を乗り切っていく経営基盤になっていくものだと考えています。最後になりますが誰もが現状を見つめその上で努力をすることができれば、近い将来業界全体やこの地域全体の活気となってくれるものと期待をしていきたいと思っております。

本年も何卒よろしくお願ひ致します。



私は SHIAWASE

株式会社 小畑建設
小畑 萬枝



私は数年前までパソコンは全然できませんでした。電気屋へ行っても、パソコンの壁紙の写真鑑賞で、チューリップがいいか？山の写真がいいか？で、ちんぷんかんぷん。しかし幸い協会の研修（エステック）あるいは出雲市の夜間学習等の機会を得て、遅まきながらも学習を開始し、今は、とりあえず基本的な操作は可能になりました。「あ〜良かった。なんとか世の中についていけるのでは」が今の実感です。今は、何十年も続いた業務の管理形態は一変してしまいました。入札は電子入札、用紙形態もB版、⇒A版、書類管理は全てパソコンで電子化。官庁、銀行の手続きさえも申請可能。こここのところの数年は私にとっては仕事環境は大激変。そして、あつというまに今年、還暦を迎える年となりました。

しかし、私はSHIAWASE。車も運転できるし、パソコンも一応使える。身体も今のところ薬の力も借りなくていい。優しい主人と、我が家なりに順調に成長した子供達。そして年老いてきたけど可愛い愛犬「ポウ」。勿論、会社の役職員にも大変恵まれ、おかげさまで創業以来50余年、現在まで事業も存続できました。感謝、感謝です。

こここのところの私達業界の置かれている環境は、年をます毎に厳しくなるばかりで、限りない不安の環境となってまいりました。そのような時代において、事業を継続し遂行することはとても、とても、大変大きな不安で、日々思考錯誤の連続です。そんな毎日ですが、ふと思いました。もし、私はこの仕事に就労していなかったら、確かに大きな不安はなく一見平和で幸せな毎日でしょう。しかし、日々山積の諸問題の中でも、創意、工夫、自己研鑽の意識開拓などを通しての、小さな学習、小さな発見、小さな喜びは、決して味わうことはできなかったのではないのでしょうか。

このごろはテレビのニュースも、日常会話も、つい暗い話題ばかりになりがちですが、かつて、私が小さい頃「小さな親切運動」が盛んに展開されて、なにかほのぼのとする感情をあげました。昨秋、ちょっとそんなことを思いだしながら、明るい明日への小さな一歩を目指し、私も実行というキーを、思い切って押してみました。「オリジナル煎餅」の製作です。まず、明るい単語を並べてみました。「しあわせ」「てあわせ」。可愛い絵も描いてみました。男の子、女の子、ちっちゃいハート。そして美味しい煎餅屋さん巡りに「しあわせ・てあわせ煎餅」がなんとか誕生しました。「日々、目線を上向きにして、明るく感謝しながら暮らしましょう！」そんな思いが伝えられたら幸いです。

(もしご購入をご希望なら、当社窓口でいつでもお求めになります。おいでをお待ちしております。美女&塾女がお迎え致します。尚、昨年12月よりギガギヤリ-OZさんにも置かせていただきました。)

「一日、一日、無事であることはとても幸せなことで、日々いつもどおりであることは限りなくありがたい。感謝、また感謝」このような気持ちは、この度の震災でどれだけ多くの方が共有している感情でしょうか。

わたしは還暦、今とても SHIAWASE です。



しあわせ・てあわせ煎餅



重金属の吸着材開発について “へびメタ★クリーンZ 誕生!”

大福工業 株式会社
環境部長 小村 一行

「重金属・有害物質」と言うことばは鉱工業地帯でのイメージが強いですが、近年、自然由来の重金属混じり土壌が問題となっており、鳥根県内においても例外ではありません。

平成15年に土壌汚染対策法が施行され、平成22年改訂土壌汚染対策法が施行されました。

その目的は「土壌汚染の状況の把握に関する措置及びその汚染による人の健康被害の防止に関する措置を定めること等により、土壌汚染対策の実施を図り、もって国民の健康を保護する。」であり鳥根県内でも公共工事或いは民間会社による土地開発等により自然由来の重金属混じり土壌が見つっています。

自然由来の重金属混じり土壌は全国的に存在しており、それぞれの都道府県でその対策工法或いは吸着材の開発が検討されています。

弊社では、平成20年より重金属の吸着材・不溶化材の研究開発に取り組んでいました。

重金属はカルシウム (Ca) ・マグネシウム (Mg) ・鉄 (Fe) ・アルミニウム (Al) に結合する性質があります。弊社では以前から鉄鋼メーカーの副産物 (廃棄物) の有効利用を産学官で研究開発に取り組んでいた中で、鉄鋼メーカーの副産物には前記のCa、Mg、Fe、Alを多量に含んでいるため吸着材の原料の一部で利用できると思い基礎実験を実施しました。

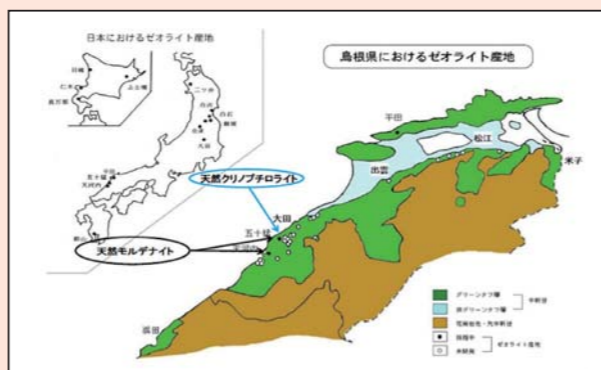


図-1(ゼオライトの産地)

また、弊社の開発した吸着材は、放射線の吸着で一躍脚光を浴びた「ゼオライト」を主原料としています。このゼオライトは東北地区及び、西日本では鳥根県が主要産地であります。現在大田市仁摩町で産出されています。

すこし、ゼオライトについてお話をします。

ゼオライトは多孔質であり、その細孔径は0.4～1 nm (1nm=10億分の1m) です。

その細孔の中に、マグネシウム・カリウム・ナトリウム・カルシウムなどの陽イオンを保持する性質があります。特にゼオライトの陽イオン交換容量は永久荷電といい、周囲の環境に左右されず、長期間力を持続でき、陽イオンの重金属などの有害化学物質を吸着する特性があります。

陽イオン交換容量はCECで表し、約80～180meq/100gです。

また、ゼオライトは、土壌の改良、水質浄化、畜産の環境改善、建材の原料、脱臭プラント用資材など各分野で様々な用途に使われています。

たとえば、土壌の改良ではチッソ・リン・カリの肥効促進、保水力の向上などの効果をもたらします。身近なところでは、ニキビ、加齢臭を抑える、汗のにおいのアンモニアを取除く効果があります。

弊社で開発した吸着材は、この鳥根県産ゼオライトを主原料とし、鉄鋼メーカーの副産物を補助剤としたものでありますから、吸着材の原料はほとんどを鳥根県内で賄っています。

吸着材の名称「HMC-Z」とし、平成21年に特許申請をしました。

「HMC-Z」とは、

- H …… 「へビー」
- M …… 「メタリック」
- C …… 「クリーン」
- Z …… 「ゼオライト」

いわゆる、へビー(重)・メタリック(金属)・クリーン(きれいに)
「HMC-Z」……………「へびメタ★クリーン-Z」

名前を付けるのは難しいです！

この、吸着材は大田市朝山町の工場に平成22年より設備を開始し、平成23年4月から地元大田市で職員を採用し稼働しています。この、製造設備も大手メーカーの既製品を導入するのではなく、鳥根県内の鉄工所或いは、制御関連会社を中心に設計から行いました。

販売体制は全国40社加盟のシーリングソイル協会を中心に行っています。

この吸着材の用途は、公共工事で発生する残土 (特にトンネル工事等のズリ・・・岩塊) の処理工法として使われています。地域によって異なりますが、トンネル工事から発生するズリには自然由来の有害物 (砒素、セレン、ホウ素等) が混入している事があります。

鳥根県でも江戸時代に銅を産出していた笹ヶ谷鉱山があり、銅とともに砒素を含んだ砒石も産出されていた。江戸時代に殺鼠剤「石見銀山ねずみ捕り」は有名な話です。

日本に限らず、アジア地域でもヒマラヤ山脈系からはガンジス川、インダス川、メコン川、レッドリバー (紅川) などの大河川が流れており、黄河を含めてこれらの流域で80年代頃から砒素汚染が発生しています。この地域での砒素汚染の主な原因は、沖積地の堆積物中の砒素が地下水中へ溶け出したためと考えられています。バングラデシュ・ミャンマー・カンボジア等の地域では砒素の混入した地下水を飲用しています。現在、日本を含めた各国が低コストの浄化装置を提案しています。

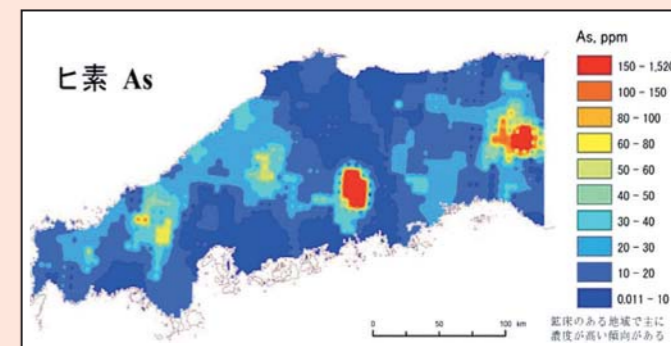


図-3(地球の化学図を参考)

このように日本に限らずアジア地域でも自然由来の重金属が問題となっているので、平成22年改訂土壌汚染対策法が施行されたのに併せ、弊社でも専門的な技術を持った職員を養成しています。例えば、昨年より始まった、環境省の「土壌汚染調査技術管理者」試験、(社)土壌環境センターの「土壌環境管理者」試験を受験しています。……………難しいです！

みなさんも是非、トライしてください。

心が和む “笑刻” の世界への誘い

一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会 事務局

先日、インターネットを覗いて見ていたら、思わず“微笑んでしまう”ような面白いホームページを拝見しました。

世の中の景気も一向に良くなりならず、この殺伐とした世間を反映するような忌まわしい事件や事故が発生していますが、この笑刻を見ていただき、ひと時の間でも心を和ませていただくことができれば、と思い紹介させていただきます。

この方は、自らを「笑刻家」と称し、本業は自転車販売店を営む「岩崎祐司」さんです。自転車販売業を営む傍ら、その店の隣に「ギャラリーくすくす」を開設して、パロディーや駄洒落を木彫りにしたものを展示し、無料で開放されているそうです。

作品の一部を紹介しますと、

坂本龍馬が颯爽とスクーターに乗っている「リョーマの休日」や柔道家が動物のサイを投げ飛ばす「サイは投げられた」、また燃え盛る火の中に侍が飛び込んでいる「飛んで火にいる夏の武士」など、厭なことを忘れさせてくれる写真のような面白いパロディー作品が沢山展示してあります。

なお、この「パロディ木彫 ギャラリーくすくす」は下記のホームページでご覧になれます。

<http://www.iwasaki-parody.com>



◀サイは投げられた



◀ウリ言葉にカイ言葉



◀壁に耳あり障子にメアリー



◀田中からぼたもち



◀月とすっぽんぼん



◀うわさをすれば亀



◀飛んで火に入る夏の武士



◀三台目のそうじき



◀子ロバの先にツエ



◀両手にはな血



◀猫にコンバンワ



◀石の上にも三年B組

くすくす mobile

QRコードを読み取ることで、簡単にアクセスできます。ここからアクセス! ▶



東日本大震災の大津波で甚大な被害を受けた東北地方の市町村の中で、民家の崩壊や死者がなかった岩手県の普代村というところがあります。

大津波から村を守ったのは15メートルの高さの防波堤でした。

当時の村長が、国や県に要望して建設が進められました。莫大な費用がかかるなど周囲からは反対意見も多かったのですが、明治28年と昭和8年に大津波を経験している村長が15メートルという高さを断固として譲らず、昭和34年に防波堤は完成しました。まさに村の財産を、そして住民の生命を守るために、政治生命を賭して防波堤建設を英断された村長の先見の明には感服しました。この防波堤が50年の時を経て村を救うことになったのです。

一方、我々が住む鳥根県には、鳥根県庁の位置する松江市に鳥根原発第1，2号機があり、間もなく第3号機も完成するものと思われます。中国電力は、福島第一原子力発電所の事故を受け、鳥根原発の新たな津波対策を発表しております。その内容は、想定を上回る津波に備えるため、敷地にある防波堤を更に高くし、幅も厚くして、原子炉建物などの扉を防水用に取り換えるというものですが、防波堤のかさ上げ工事や原子炉建物の防水対策工事は、勿論建設業者が施工するものであり、建設業は地域住民の安全・安心のためには必要不可欠なものです。

昨年の東日本大震災で、防災対策の要としていかに公共工事が重要な役割を果たしているか改めて感じた方も多はずです。私たち建設業者はこれからも人々が安心して暮らせるまちづくりに貢献することが使命だと思います。

年末に行われた「干支の引き継ぎ式」でタツノオトシゴが「景気も復興も昇竜のように上り調子にしてみせます」と抱負を語ったそうです。今までの低迷状態を脱して上向きになることを願っています。

経営改善研究委員長 福田 美樹